

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							3.3
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮				3.0					
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能			0.43					3.7	
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50					3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	カーペット(床)、ビニルクロス貼(壁):20年	5.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	硬質塩化ビニル管(給水・汚水)、配管用炭素鋼管白(消火)	5.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		2.8	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

3 対応性・更新性			4.3	0.50				4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30				
1 階高のゆとり	階高3.9m以上		5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 < 0.1		5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり	設計荷重4500N/m ² 以上		5.0	0.30				
3.3 設備の更新性			3.4	0.40				
1 空調配管の更新性	—		3.0	0.20				
2 給排水管の更新性	—		3.0	0.20				
3 電気配線の更新性	仕上げ材を傷めることなく電気配線の更新・修繕ができる		5.0	0.10				
4 通信配線の更新性	仕上げ材を傷めることなく通信配線の更新・修繕ができる		5.0	0.10				
5 設備機器の更新性	—		3.0	0.20				
6 バックアップスペースの確保	—		3.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57				3.0
1 生物環境の保全と創出	—		3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮	—		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上	—		3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性			—	—				3.0
LR1 エネルギー			—	—				—
1 建物外皮の熱負荷抑制	—		—	—				—
2 自然エネルギー利用	—		—	—				—
3 設備システムの高効率化	—		—	—				—
集合住宅以外の評価			—	—				—
集合住宅の評価			—	—				—
4 効率的運用			—	—				—
集合住宅以外の評価			—	—				—
4.1 モニタリング	—		—	—				—
4.2 運用管理体制	—		—	—				—
集合住宅の評価			—	—				—
4.1 モニタリング	—		—	—				—
4.2 運用管理体制	—		—	—				—
LR2 資源・マテリアル			—	0.50				3.0
1 水資源保護			3.4	0.20				3.4
1.1 節水	節水コマに加え、節水型便器、自動水栓を採用している		4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無	—		3.0	0.70				
2 雑排水等利用システム導入の有無	—		3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60				2.8
2.1 材料使用量の削減	—		2.0	0.11				
2.2 既存建築躯体等の継続使用	—		3.0	0.22				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—		3.0	0.22				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—		1.0	0.22				
2.5 持続可能な森林から産出された木材	—		—	—				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	下地にLGSを採用、再利用できるユニット部材を採用		5.0	0.22				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	—		3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70				
1 消火剤	—		—	—				
2 発泡剤(断熱材等)	—		3.0	0.50				
3 冷媒	—		3.0	0.50				
LR3 敷地外環境			—	0.50				3.1
1 地球温暖化への配慮			—	—				—
2 地域環境への配慮			3.3	0.50				3.3
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない		5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善	—		3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減	—		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制	—		3.0	0.25				
3 交通負荷抑制	—		2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制	—		1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮			3.0	0.50				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
1 騒音	—		3.0	1.00				
2 振動	—		—	—				
3 悪臭	—		—	—				
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40				
1 風害の抑制	—		3.0	0.70				
2 砂塵の抑制	—		—	—				
3 日照阻害の抑制	—		3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—		3.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—		3.0	0.30				

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	-	-	1.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	2.0	3.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m²K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

昼光率 0.0%

自然換気有効開口面積率 0.0%

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 0m²/人 病床 0m²/床 シングル 0m² ツイン 0m²

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 6.15 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 9.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 15000 N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 #DIV/0! 建物緑化指数 #DIV/0!

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 46% 水平投影面積率 4% 地表面対策面積率 21% 舗装面積率 19%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

3 設備システムの効率化

非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - -

集合住宅の評価

一次エネルギー削減率 再エネ有 無 -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 50% 隣棟間隔指標R_w 1.04

地表面対策面積率 21.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積S_b 636m² 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 92.195 m 基準高さH_b 13.65 m緑地 1,347m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²